

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この間までと同じ、いつもと変わらない生活の中で暮らして頂きたい。笑顔で安心が実践されているか、地域の馴染みの中へ出かけることで、その様子を見ていただき、「良かったね」と言っていたけことを、又「そうですよ」と答えていただけるように皆で「笑顔で安心、一緒に暮らそう、ずっと家族だよ」を意識しながら実践しています。	理念を基に、新入社員、2年目の職員、4年目の職員が何をやるべきかを明確に示し、理念をサービスに繋げられるように対応しています。また、日々の支援の中で折に触れ理念の確認をしています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春には山菜取りに出かけたり、夏にはお祭りや花火見物にも出かけ、秋には農業祭に出かけたり、川原へくみ拾いに出かけたり地域の馴染みの方との会いを大切に交流しています。市内のグループホームとの交流会に参加したり、ボランティアさんからの協力も頂いたり、つながりを大きく出来るようにしています。	浦佐の菊祭りへの参加など魚沼地域の活動には参加するように心がけているほか、市内のグループホームとの交流会に参加したり、近隣の方々とは日常的に交流し、馴染みの関係ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践者研修、ヘルパー研修、ボランティア講座等の施設研修や、中学生の職場体験等、地域から声かけを受けたときなどは、出来る限りの協力をさせていただいています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議の中で、適切なお意見やご指導を頂いております。それらは、日々の暮らしの中で実践できるよう、ミーティングなどで伝えるようにしております。	運営推進会議は2か月に1回開催しており、民生委員や近隣の住民、市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や包括支援センターの担当からは地域ケア会議や、区分別ケア会議等の外にもわからないことなど気軽に教えて頂けるので、ありがたく思っております。又栄養士さんからも献立表の指導を頂いたり、更新時の調査員さんとも協力し合っています。事業所で協力できる事は実施していきたいと思っております。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。いつもアドバイスを頂いているほか、市の栄養士にも献立表を無料で3ヶ月に1回チェックしていただくなど、いつでも気軽に相談しあえる関係にあります。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	魚沼市のマニュアルなどを参考にして新人研修では必ず取り入れ、自分のこととして考え、自分が嫌な事は、何らかの拘束につながる可能性が大きいので、職員全員で意識して拘束につながらない努力をしています。	魚沼市のマニュアル、認知症介護研修センターのマニュアルを活用し研修を行い、言葉による抑制についても確認するなど職員全員で理解を深めています。		
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市が実施している研修などのほかに、新人研修や、ミーティング時に話し合っ、拘束と同じように全職員が意識して関わっている。	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、マニュアルを整備し、虐待防止に関する内部研修を行なって、防止に取り組んでいます。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	魚沼市が行う研修には出来る限りの職員が参加できるように務めています。新人研修においても、簡単ですがパンフレットなど用意して説明するようにしています。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす前に、居宅ケアマネと連携し、事前に見学していただいたり、訪問して説明したりしながら契約を交わしております。その後も、出来る範囲で協力させて頂きながらご理解頂く様にしております。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族から順番に参加頂き、忌憚のない意見を発言いただいております。又面会の折などにも直接声をかけて頂いているのでその都度話し合いながら、反映できる事は反映させていただいております。	開設時に家族会を立ち上げ、年に1回は開催し、意見をいただけるよう努力しています。苦情などは寄せられていませんが、玄関にご意見箱も設置し、面会時に確認したご家族の要望を実際に活かしています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中から、直接提案を受け検討や助言を行い実践に繋げています。ミーティング時には一人ひとり意見をきけるようにし、提案していただき、良いと思う提案は反映させ実践しています。	各ユニット毎月月初に1時間30分程度ミーティングを行い、意見を吸い上げるようにしているほか、社長、管理者も現場で業務を実際に行う中で、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスなどの説明を実施し、職員が目標を持てるようにして頂いています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常日頃から、ケアに関しての職員の動きについて、社長としての目線ではなく、家族としての目線で意識してみているのでそこで感じていることを言うからと、指導を受けている。又研修などは希望を取って参加出来るように調整したり、内部での研修も少しずつではあるが計画実施しています。個人研修などにも協力して頂いています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区分別ケア会議やしないグループホームとの交流お楽しみ会などのほかに、これからは三魚沼グループホーム連絡会の提案で、お互いの見学や研修などの交流が可能となってきており、取り組んで行きたいと思っております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネや包括支援センターと連携しながら、本人との世間話などから話し合いを行い、どんな事が不安だかなど聞かせていただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅ケアマネ、包括支援センターと連携し、出来る限りの訪問や面接で、困っていることを、しっかり伺ってそわんでの取り組み方などを、説明させていただき「ああ よかった」と思っていたけような関係を築きたいと努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、色々なサービスが利用できることを説明し、本人、ご家族が何を望んでいられるかなど引き出せるような対応に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、そわん家族になれるように、利用者が出来る事は、手伝って頂き出来ない所を手伝って、お互いが支えあって、感謝し合えるような関わりが出来るように努めています。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の様子を説明し、家族でなければ納得頂けない事等があるときは、じっくりと話し合っていたり、良策を検討するなど、本人、家族、職員の有効な繋がりが保たれるように努めています。	事業所広報の「あったか通信」と担当者が作成するお手紙を毎月送付しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅方面へのドライブに出かけ、懐かしい友人にであったり、行きつけの理美容院へ出かけたり、スーパーなどの買い物に出ています。又友人がそわんに訪ねていただけるような声かけにも努めています。	ご利用者の友人宅までお送りし、お茶のみをしていただいたり、ご自宅が気になる方には連れて行ってあげたりと今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についてもご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時を大切に出来るように、その場の話題を、出来るだけ膨らませたり、職員が間に入りお互いが気分よく会話できるよう支援しています。皇室のDVDなどは懐かしく話が弾みます。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方などは、包括支援センターの方に伺ったり、御家族に様子を伺ったりしております。又入院時などには、ご利用者と職員が出来る範囲でお見舞いに出かけ、そわんのことを話しています。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家事を手伝うことが得意な方、色々なことを気にかけて連絡してくれる方、自分のほうだけ向いてほしい方、よく分からないけどうちに帰りたいと思っている方、何とか此处で暮らさなくては等色々な思いで、日々過されている利用者さんの、その思いに寄り添えるように、職員間で話し合いながら努めております。	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、ご本人が話してくれたり、訴えてくる希望にそえるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握するようにしています。		
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や、センター方式の私の思いシートなど活用始めており、出来る限り一人ひとりの暮らしの情報把握できるように努めております。仕事のこと、趣味のこと、友人のこと、連れ合いのこと、子供のことゆっくりと聞かせていただいています。	事前面接の際にご家族やご本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと情報の把握に努力しています。	センター方式に取り組んでいます。職員間での理解度の差があるようです。活用方法を検討するなどしてセンター方式への理解を深めることを期待します。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子や前日の様子等が共用できるように支援経過を記録し、職員間で情報を共有して、その時々状況に応じた関わりが出来るように努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個別のケア状況についても検討、モニタリングを行い、電話の折などに家族とも話し合いながら、作成した後日本人または家族に説明をさせて頂き、本人の笑顔、安心を大切に計画できるように努めています。	ご利用者の息子さんとの話し合いの中で、ケアプランにデジタルカメラで写真をとることを盛り込むなど、関係者の意見を反映し介護計画を作成しています。また、3ヶ月に1回担当者が中心に管理者とモニタリングを行い定期的に見直しを行っています。また、利用者の状況に応じて柔軟に見直しを行なっています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過記録に、本人の声なども記録し、職員、管理者ともに情報を共有し確認しあいながら実践している。気になるところは話し合ってプランの見直しなどのモニタリングにつなげるようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況など話し合いながら出来る事は、気持ちよくなれるような対応をしている。自宅外泊時の送迎などを行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時の地域資源を参考にしながら、その資源を有効的に利用することが出来たら良いと思いついて関わっております。又現在(そわんでの)の資源マップも少しずつ作ることが、出来たらと思っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にそわんの協力医について説明させていただき、ご家族やご本人が納得された方については協力医の先生から主治医となって頂いている。又在宅からの継続による主治医の方もるので、各医療機関の相談員さんなどと連携させていただき適切な医療が受けられるように努めております。	そわんの協力医については職員が受診支援をしていますが、協力医以外の受診は基本的にご家族にお願いしています。医療機関には受診連絡票を渡し、情報提供を行なっています。往診に来ていただくときもあり、連携を図りながら対応しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としていないので、職員と管理者が話し合っ、受診連絡表などに記入し、協力医療機関と相談させていただくように努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そわんでの様子を連絡表にまとめて情報提供を行うとともに、随時経過確認を行ったり、お見舞いの折などにも様子の確認をさせて頂きながら入院が長引かないように家族、医療連携室からの情報を大切に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で最後までに関わりを伝えておりますが実際の所、そわんでは経験がありません。今後は出来るだけ、家族会や職員間でしっかりと検討し、今後主治医、訪問看護等との、連携方法を包括を交え検討し、利用者、ご家族が安心できるように努めたいと思います。	契約段階で管理者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを伝え、看取りの指針やマニュアルを整備しています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っています。	看取りの指針については職員にも徹底し、事業所としての方針を共有するように対応されることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回全職員が前期と後期に分けて講習会を受けて勉強しております。実践することがないことを祈りつつ、必要時には適切な対応が出来るように、意識しております。	毎年1回は全職員が普通救命講習を受けているほか、ヒヤリハット・ドッキリの記録をもとに職員会議で共有する場を設けています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施する中で、慌てないで行動が出来るように、個々にどう避難対応したら良いかなど話し合っており共有しております。これからは地域の防災訓練などにも参加し、より協力いただけるような体制を、作って行きたいと思っております	避難訓練を年2回実施し、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には非常時の際の協力を依頼しております。また、非常用の食品についても半年に1度は点検しています。	夜間を想定した訓練がまだおこなわれておりませんでしたので、今後計画し実施されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の日頃の様子などから、声かけを行うようにして、方言などもまじえ、自尊心を傷つけないようにし、親しみやすく笑顔から信頼関係が作られるように、その時々を大切にしています。	広報誌への写真の掲載は同意を得てから行なわれており、声かけも方言を使用してもきつい言葉にならないように配慮し、支援が行なわれています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々を聞きながら想いなどを引き出せる対応に努めています。本人が悩んで決めかねている時など、きっかけとなるような言葉がけをするように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりきった関わりでなく、本人が行きたいところ、やってみようと思いが通りに伝えられ、その思いに添えるよう出来る限りの努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、理美容院へ行った時等その都度対応しております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥き、ゴマすり、米とぎ、味見、又茶碗洗い・拭き、箸・箸置き配り、テーブル拭き、配膳など手伝っていただきながら、昔なつかしのご馳走話にも花が咲いたりし、笑顔が見られています。	ご利用者と職員が食事について会話をしている感じが、とても暖かい雰囲気を感じました。ご利用者の能力に応じて調理や味付け、後片付けなどに参加する場面もあります。また、個々のご利用者の要望に応じて外食支援を行なうなどの対応もとっています。また、事業所の畑でも野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示がある方を含め、食事摂取や水分補給の声かけを行っている。食事の量や栄養バランスなども、献立表に記録して3ヶ月に1回市の栄養士さんから見ていただきアドバイスを受け、美味しく食べて満足いただけるように努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後、紅茶でうがいをし、義歯洗浄、歯磨きの声かけ及びお手伝いしています。お昼は声とお手伝いでかけて歯磨き、うがいをしています。又県からの文書を参考に歯科医師からの口腔ケア研修を11/9に受講することになっている。(そわん内研修)朝の体操時に口腔ケア体操も取り入れてケアの大切さを伝えています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた支援を行って、失敗しても落ち込まないように、さり気なく支援しています。又本人と話し合ったり、職員間で話し合ったり八パンから布パンツへの変更支援なども支援しています。(排泄はトイレじゃないと出るものも出ないからの)	一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、ホーム入居後尿意を取り戻し、おむつの外れた方もおられます。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症(気分低下)に大きく関与している事は実践の場で体験しているので工夫しているが、中々思うような運動も困難で、便秘薬、整腸剤など主治医の先生と相談の上、処方いただいている。水分を多く、野菜を多く等取り組んでいます。(排便の確認をして便秘薬の調整をし、気持ち良い排便につながるよう努めています。)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけを行いながら出来るだけ、本人の希望に添える入浴を楽しめるようにしている。時にはタイミングが合わないこともあり、その都度、工夫し気持ちよく入浴が出来るよう努めています。(お風呂で昔懐かしい話を聞いたり、歌ったりゆっくりと入っていただいています。)	毎日入浴は可能な状態になっており、入りたい方には毎日でも入ってもらっています。入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるよう努めています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の声を聴きながら、疲れたと訴えがあれば、どうしたらよいかを、確認しながら気分良く休んだり、眠れるよう努めています。又気候に合わせて寝具の調整や冷暖房の調整を行ったり、声かけで良眠が得られるよう努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に処方内容を確認し、新しい薬が処方された時などは、服用後の様子について見守り変化は記録、報告し、主治医に相談確認している。薬について気になる時は、インターネットなど利用して調べることがあります。精神薬については服用後の様子等も記録し職員で共有し、気になる時は主治医に相談しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い(茶碗拭き)や廊下のモップかけ、洗濯ものたたみ、針仕事、畑仕事、花壇の手入れ、買い物や自宅方面へのドライブなど気分転換できるように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気具合もあるが、農業祭や、地域の文化祭、お花見など計画して出かけたり、今年はそわん夏祭りで盆踊りなども楽しんでいただけたと思う。地域のボランティアさん、ご家族、お店屋さんなど多くの協力も頂いています。(川原へくるみ広いにも出かけ、沢山拾ったので、冬仕事が出来ました。)	2日に1回程度、ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけています。また天気の良い日の散歩や行楽シーズンの小旅行も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っていても、中々自分の嗜好品を買う事が出来ない状況ですが、お財布があるという事は安心につながっている事は理解しています。大切なお金ですので声かけや見守りをしながら支援しています。補充は家族が面会の時などに行ってくれています。(お財布については残金確認など本人と家族で行っています。)			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎ、話の内容の把握に努めたり、携帯電話の支援なども必要に応じてお手伝いしております。お正月には年賀状のお手伝いなどに努めています。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの使用時間帯が重なり、間に合わず一緒に、別の階まで行ったりする事はありますが、全体にゆったりとして、季節の花などを飾ってりして工夫しております。	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的です。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、居心地のよいリビングになっています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スポーツ観戦の好きな方、お茶のみの好きな方、時には将棋をさすかた、じっくり新聞を読み情報収集する方、皆でトランプやカルタ、ちぎりえなど楽しめる方、最近はや取りも楽しみとなっています。テーブルでぼんやりと思ったら外を通る方の観察をしている方などなど、さまざまですが工夫しながら楽しんでいきます。			
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、アルバム、ラジオ、テレビ、テーブル、お花、コタツなど、一人ひとりご家族と相談して配置しています。仏壇には、毎日お茶や、お水を上げ、お彼岸などには、ぼた餅などあげてお参りしています。コルクボードには写真を貼って思い出を懐かしんでいます。そんな品物を手がかりに会話が弾むこともあります。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の自由を束縛しないように、目配り、気配りで、出来る限り、自由に行動出来るように関わっています。年々筋力低下や、認知機能低下が多くなっているため、現状の状態を維持できるように日々職員が一人ひとりの状態を把握し声かけしながら行動を共にするように努めています。			